

(資料1)

四国森林管理局管内の木材価格等の推移
(最近の動向)

令和4年12月21日
四国森林管理局

目 次

I	管内における主な原木市場・共販所の状況	
1	丸太価格の推移	1
2	丸太取扱量の推移	5
II	管内における製材等の状況	
1	製材用素材の入荷量及び在庫量の推移	7
2	製材品の出荷量及び在庫量の推移	8
3	製材品価格の推移	9
III	全国の丸太価格の動向	10
IV	住宅着工戸数	
1	四国における木造住宅着工戸数の推移	12
2	全国の住宅着工戸数の推移	13

管内における主な原木市場・共販所の状況

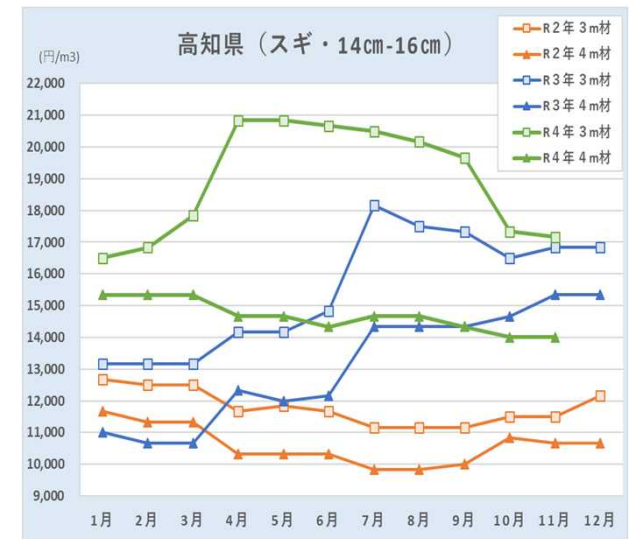
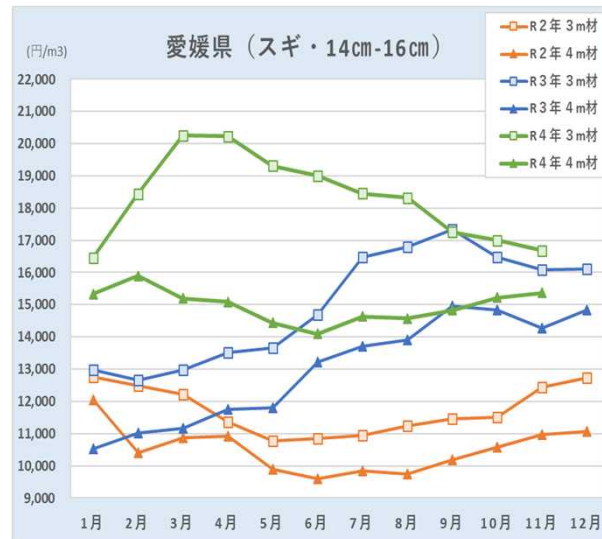
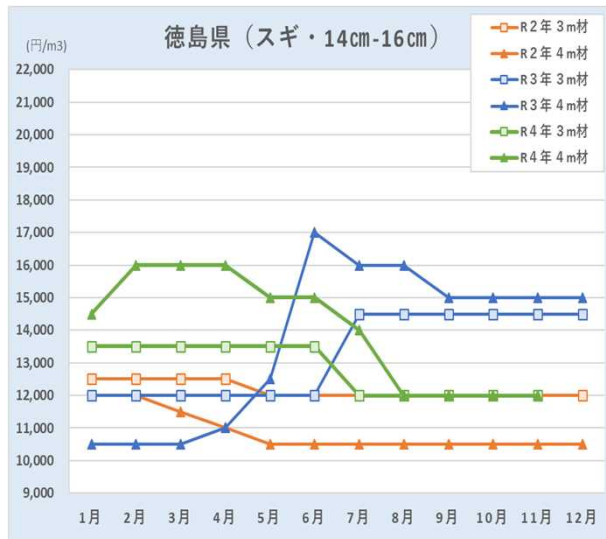
1-(1) 丸太価格の推移 (スギ、径14cm~16cm 長3m材・4m材)

- 令和3年は、春先からの原木需要の高まりも秋口には一端落ち着いたが、一般的に高い水準で推移した。
- 本年は、愛媛県、高知県では、年明けから4月にかけて3m材の引き合いが再び良くなり高騰、その後は軟調相場に移行したものの高い水準が続く。4m材は、昨年秋の値上がり以降、概ね横這いで推移。
- 徳島県は、昨年6月頃に価格が大幅に上昇、その後は落ち着きつつも堅調な相場を維持したが、本年7月頃からは弱気配となり、8月以降は令和2年同期の水準で推移。
- 11月のスギ丸太価格は、前年同月比80%から108%で推移。

○11月のスギ丸太価格

(円/m3)

県	長級	当月	前年同月	前年同月比
徳島県	3m材	12,000	14,500	83%
	4m材	12,000	15,000	80%
愛媛県	3m材	16,683	16,086	104%
	4m材	15,363	14,283	108%
高知県	3m材	17,167	16,833	102%
	4m材	14,000	15,333	91%



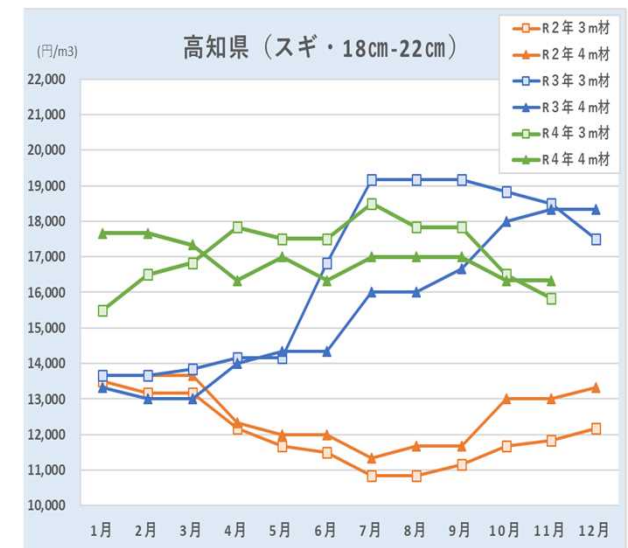
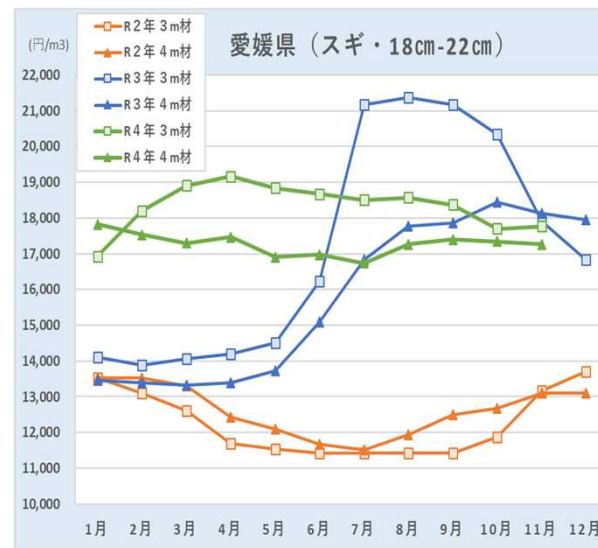
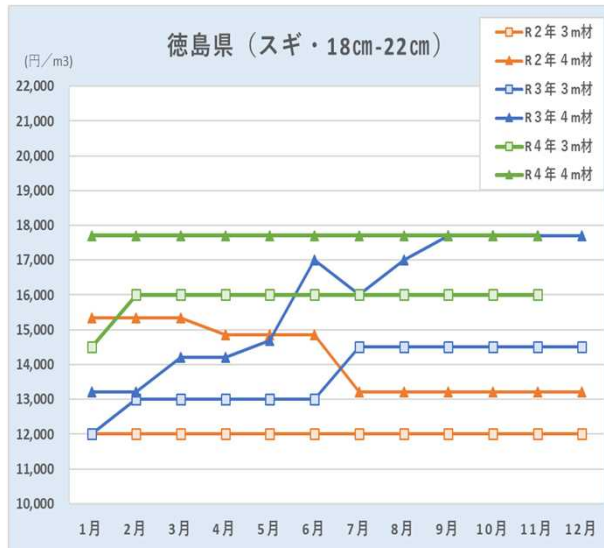
1-(2)丸太価格の推移 (スギ、径18cm~22cm 長3m材・4m材)

- 令和3年は、中目丸太も春先からの原木需要の高まりから急騰した3m材については、秋口には大きく下落したが全般的には高い水準で推移した。
- 本年は、愛媛県、高知県では、年明けから4月にかけて3m材の引き合いが再び良くなり、その後の相場も高い水準が続いたが、10月に入りやや下落が見られる。4m材は昨年秋から小さな上げ下げがあるものの概ね横這いで推移。
- 徳島県は、昨年6月頃から4m材を中心に価格が上昇、その後も保合で推移、3m材も本年2月に続伸し、その後は横這いで推移。
- 11月のスギ丸太価格は、前年同月比86%から110%で推移。

○11月のスギ丸太価格

(円/m³)

県	長級	当月	前年同月	前年同月比
徳島県	3m材	16,000	14,500	110%
	4m材	17,700	17,700	100%
愛媛県	3m材	17,767	17,900	99%
	4m材	17,264	18,130	95%
高知県	3m材	15,833	18,500	86%
	4m材	16,333	18,333	89%



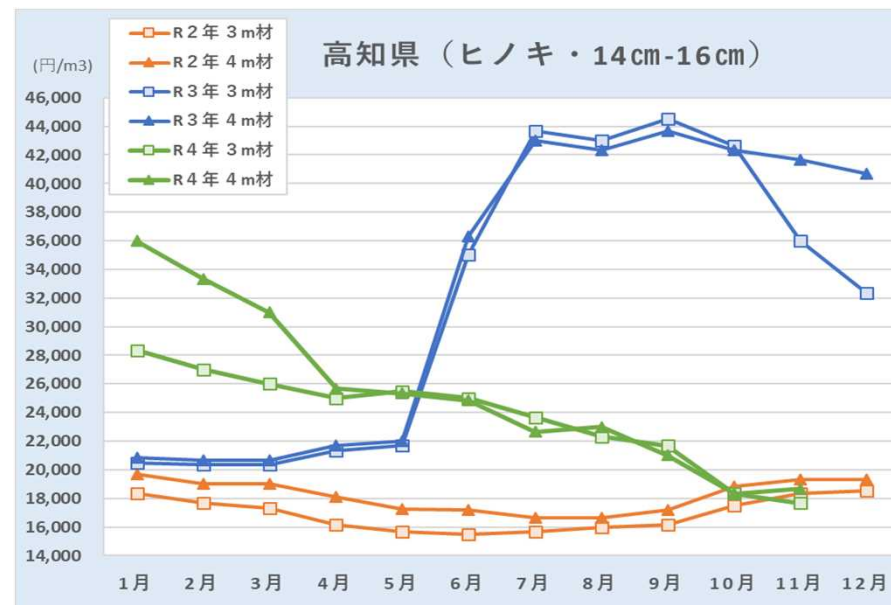
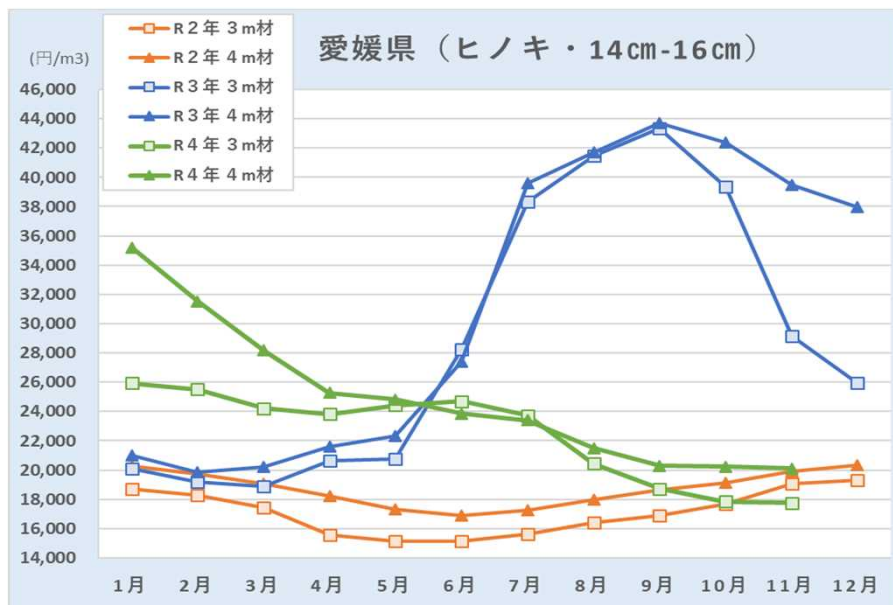
1-(3)丸太価格の推移（ヒノキ、径14cm～16cm 長3m材・4m材）

- 令和3年は、構造用丸太を中心に4月頃から買い方の旺盛な引き合いがあり、特に6～9月にかけては価格が高騰、9月頃をピークに引き合いが弱まり、特に3m材の下落が顕著であったが、全般的には高い水準で推移した。
- 本年は、年明け直後から4m材の下落も顕著となり、4月には3m材との価格差はなくなった。その後も3・4m材ともに下落傾向で推移し、10月には令和2年同時期の水準まで下落。
- 11月のヒノキ丸太価格は、対前年比45%から61%で推移。

○11月のヒノキ丸太価格

(円/m³)

県	長級	当月	前年同月	前年同月比
愛媛県	3m材	17,767	29,133	61%
	4m材	20,100	39,467	51%
高知県	3m材	17,677	36,000	49%
	4m材	18,667	41,667	45%



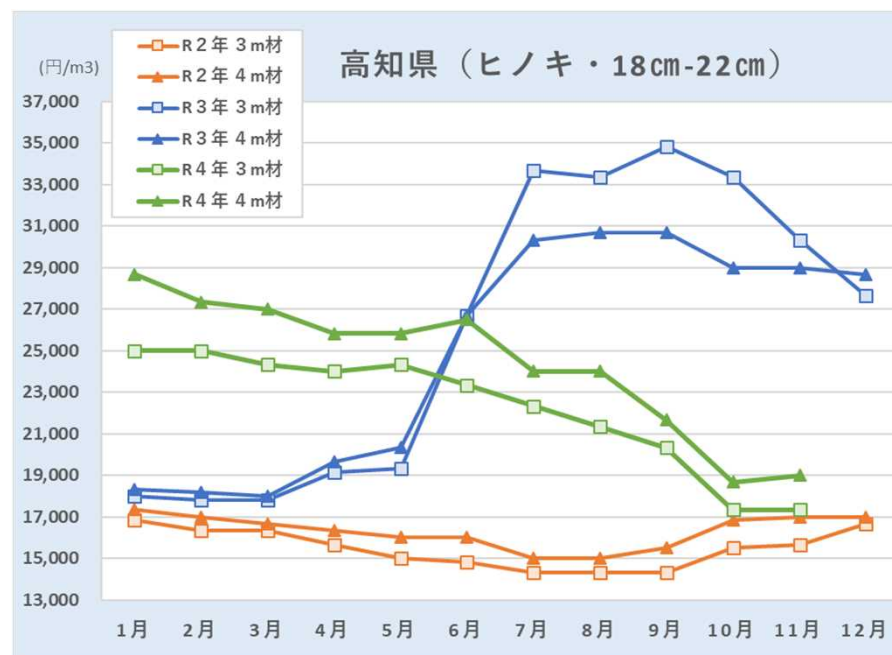
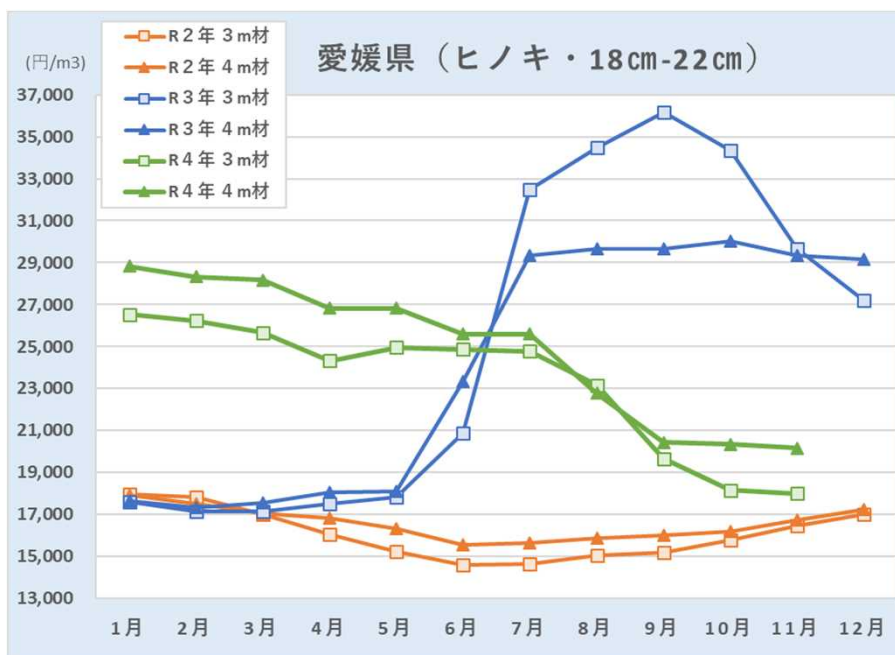
1-(4)丸太価格の推移 (ヒノキ、径18cm~22cm 長3m材・4m材)

- 令和3年は、中目材も柱適寸丸太と同じく、昨年4月頃からの旺盛な引き合いがあり、特に6~9月にかけて価格が高騰したが、9月頃をピークに引き合いが弱まり、特に3m材の下落が顕著であったが、全般的には高い水準で推移した。
- 本年に入って、愛媛県、高知県ともに更に軟化しており、7月からは一段と下げ幅の拡大傾向にあったが、10月に入り下げ止まりがみられ4m材を中心に落ち着きつつある。
- 11月のヒノキ丸太価格は、対前年比57%から69%で推移。

○11月のヒノキ丸太価格

(円/m³)

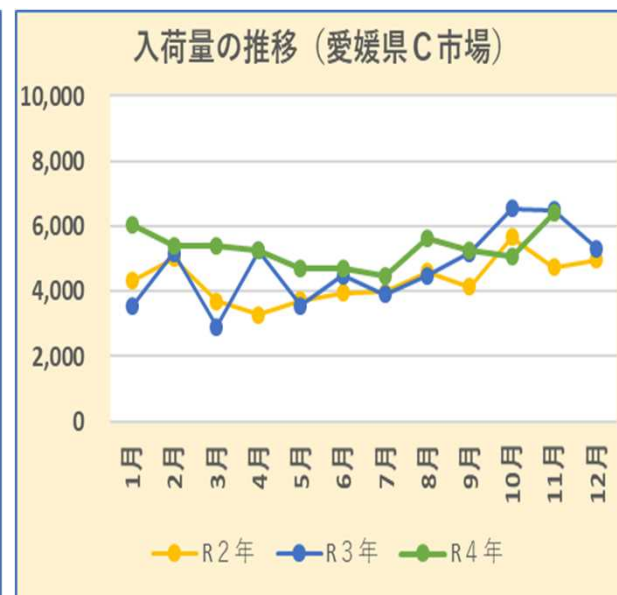
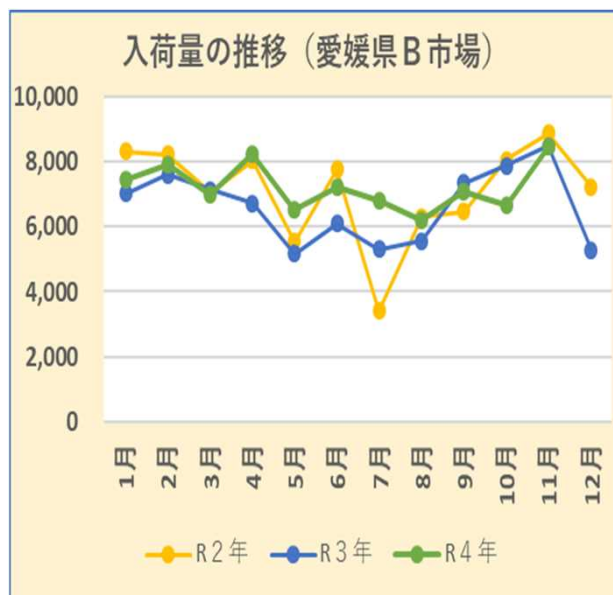
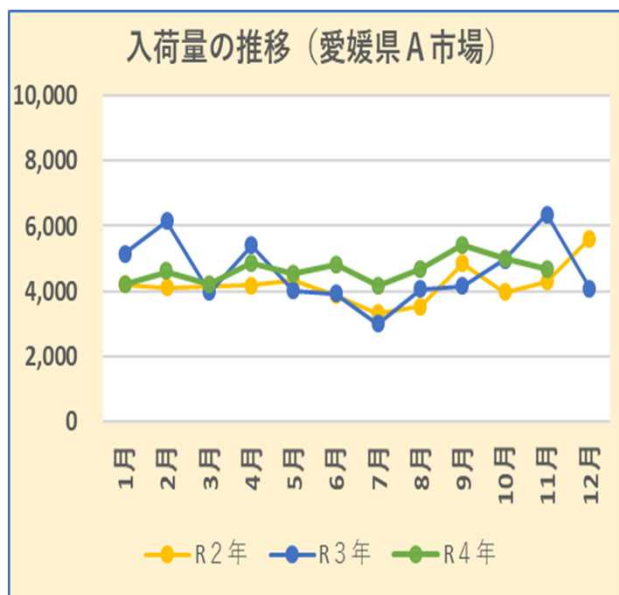
県	長級	当月	前年同月	前年同月比
愛媛県	3m材	18,000	29,667	61%
	4m材	20,167	29,333	69%
高知県	3m材	17,333	30,333	57%
	4m材	19,000	29,000	66%



Ⅰ 管内における主な原木市場・共販所の状況

2-(1) 丸太取扱量の推移（愛媛県）

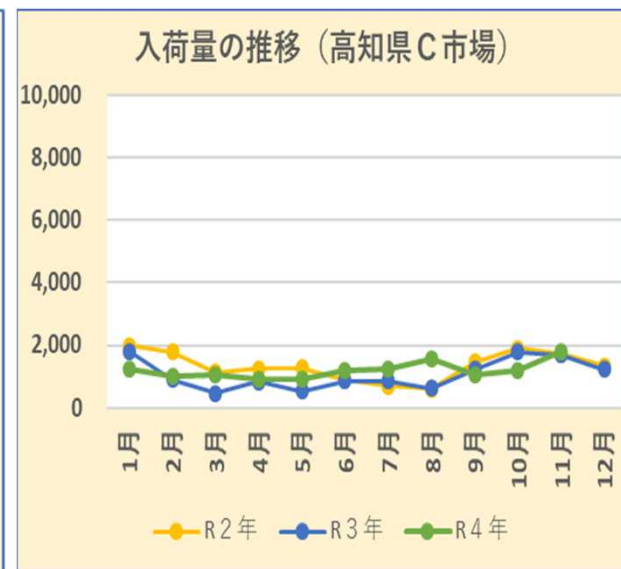
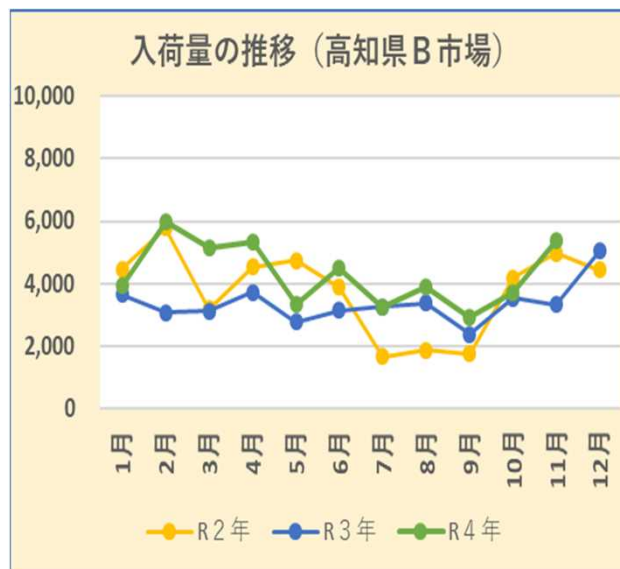
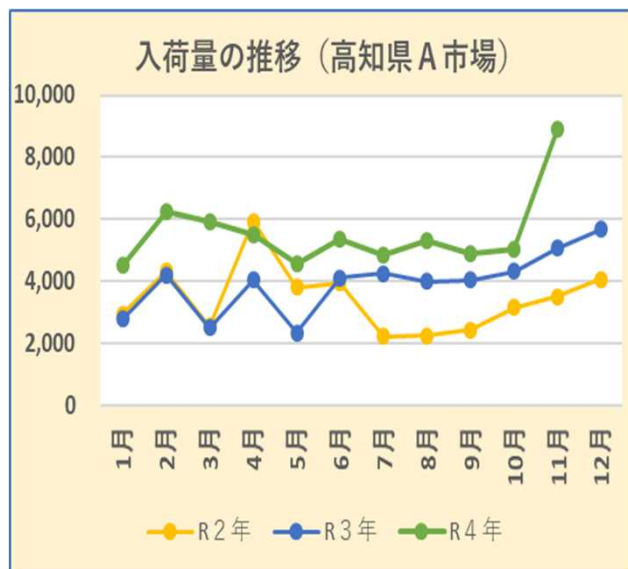
- 天候にも恵まれ出材は順調。
- コロナ禍以前よりは市況が良いため、安定した入荷が続く。
- 今後も天候にもよるが出材が減ることはないだろうと予想。
- 引き取り状況は、ヒノキは今までの未引き取り材が解消されつつあり若干荷動き回復傾向。スギは荷動き良好。



四国森林管理局調べ

2-(2) 丸太取扱量の推移（高知県）

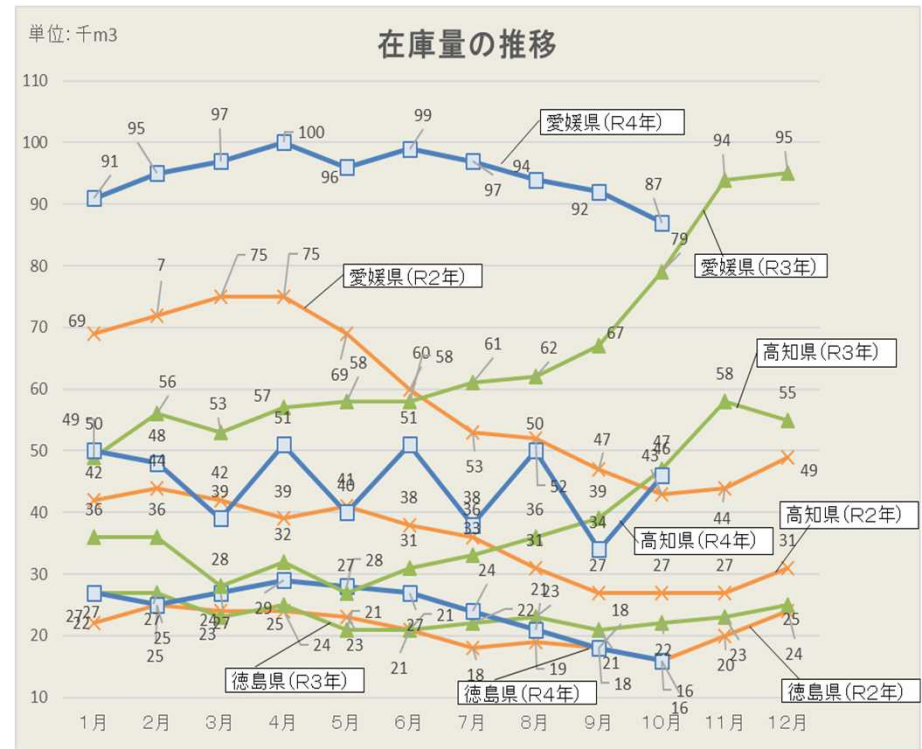
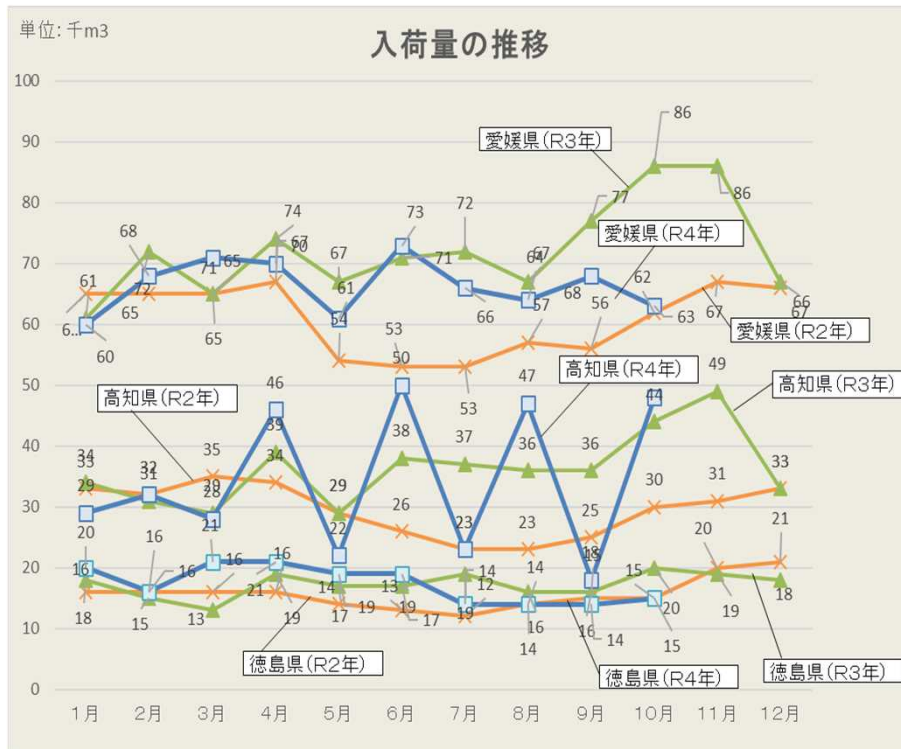
- 9月から10月の出材量は減少気味であったが、10月後半から出材が戻っており横這いで推移。
- 樹種割合もヒノキの出材が多い。
- 引き取りは順調。
- 年度内は状況は変わらないだろうとの予想。



II 管内における製材等の状況

1. 県別の製材用素材の入荷量及び在庫量の推移（令和2年～令和4年）

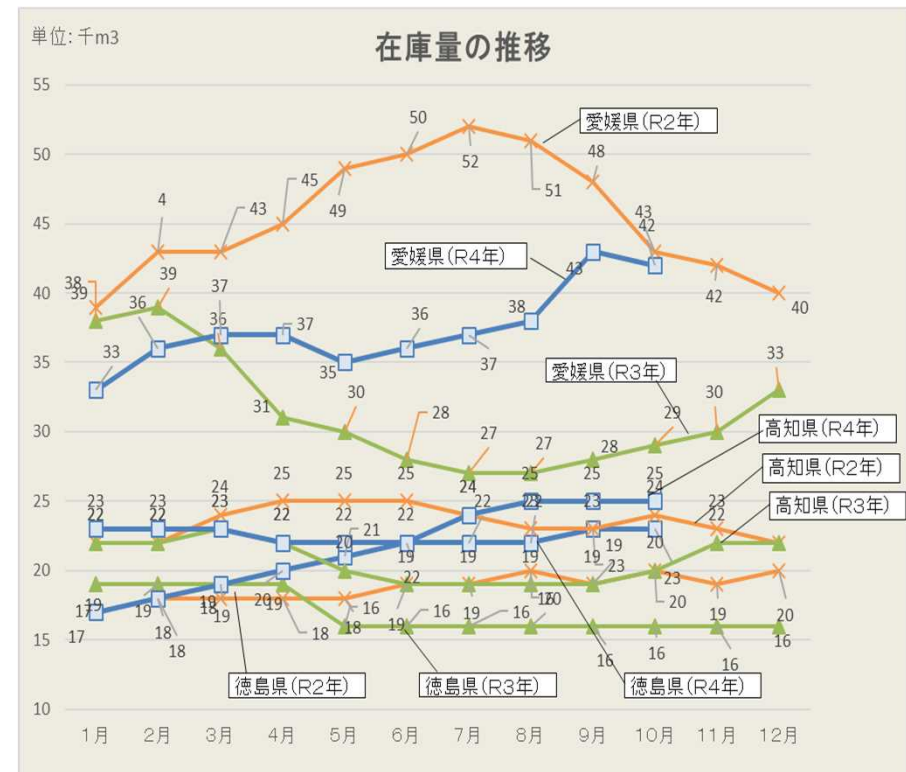
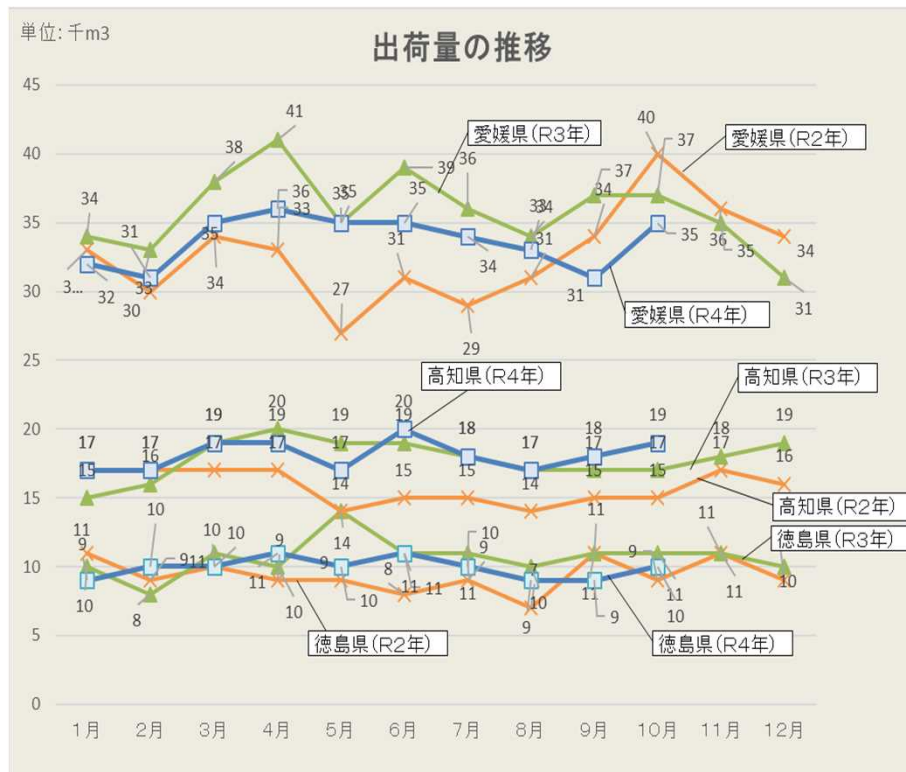
- ▶ 製材用素材の入荷量は、令和3年は製材品の好調な動きによる素材の引き合いを背景に11月頃までは好調に推移。特に愛媛、高知県では大幅に増加。令和4年は4月頃から高知県で大きな変動がみられるものの概ね例年並み。
- ▶ 在庫量は、令和3年は製材各社の積極的な丸太仕入れがあり、9月頃からは例年を上回る傾向が続いた。令和4年は5月頃から減少傾向にあるものの愛媛県では高い水準が続く。



資料: 農林水産省「製材統計」

2. 県別の製材品の出荷量及び在庫量の推移（令和2年～令和4年）

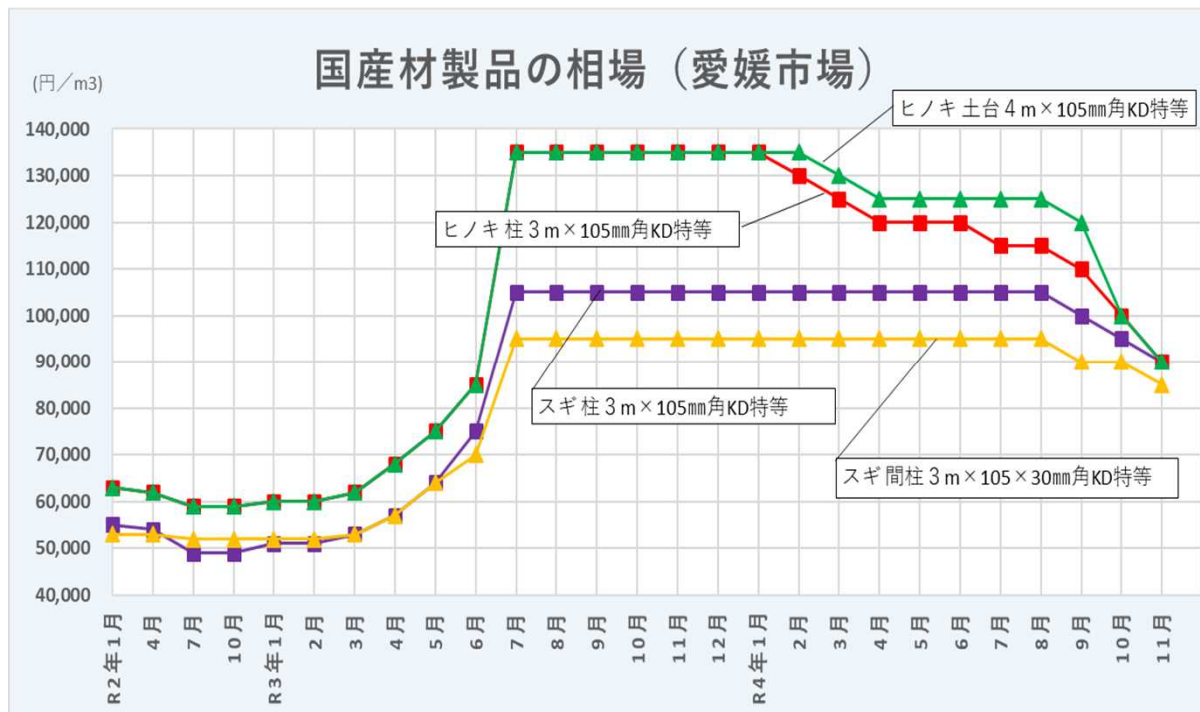
- 製材品の出荷量は、令和2年秋以降高い水準で推移。令和4年7月頃から各県ともに減少であったが、10月は再び増加に転じた。
- 在庫量は、令和3年は製品需要が好調だったことから大幅に減少したが11月頃からは増加に転じた。令和4年も増加傾向が続いたことから10月にはやや減少したものの、各県ともに前年同期に比べ高い水準が続く。



資料: 農林水産省「製材統計」

3. 製材品価格の推移

- 令和3年は国産材への代替需要の高まりから、スギ・ヒノキともに構造材を中心とする品目で徐々に値を上げ、7月からは高値を維持した。
- 最近の傾向としては、販売優先姿勢が強まったこともあり、スギ・ヒノキともに9月以降下落傾向にあるものの、荷動きは若干活発化している。
- 愛媛市場においても同様の傾向がみられ、スギとヒノキの価格差も縮小。



国産材製品の相場（愛媛県）令和4年11月

円/m³

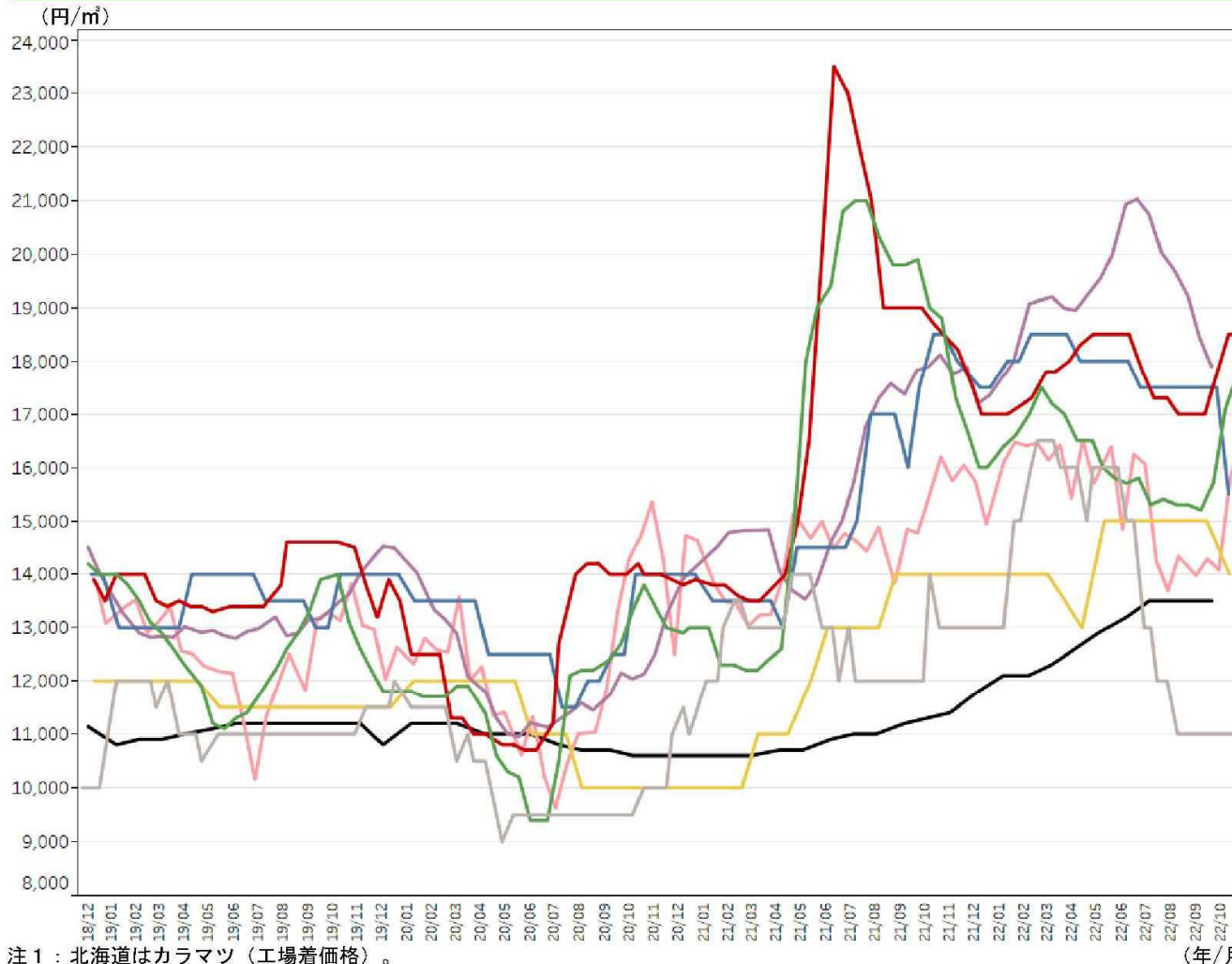
	品目	当月	前年 同月	前年 同月比
スギ	柱 3m×105mm角KD特等	90,000	105,000	86%
スギ	柱 3m×120mm角KD特等	90,000	95,000	95%
スギ	間柱 3m×105×30mm角KD特等	85,000	95,000	89%
ヒノキ	柱 3m×105mm角KD特等	90,000	135,000	67%
ヒノキ	柱 3m×120mm角KD特等	90,000	130,000	69%
ヒノキ	土台 4m×105mm角KD特等	90,000	135,000	67%
ヒノキ	土台 4m×120mm角KD特等	90,000	130,000	69%

資料：日刊木材新聞

Ⅲ 全国の丸太価格の動向

ア スギ(全国) 径24cm程度、長3.65~4.0m (2018年12月~)

- 2021年4月以降、いわゆるウッドショックにより価格が大きく上昇し、その後一部の地域で下落したが、全般的には、**2021年3月以前と比較すると高い水準で推移。**
- 直近のスギ原木価格は、**11,000円~18,500円/m³**となっている。



注1：北海道はカラマツ（工場着価格）。

注2：都道府県が選定した特定の原木市場・共販所の価格。

資料：林野庁木材産業課調べ

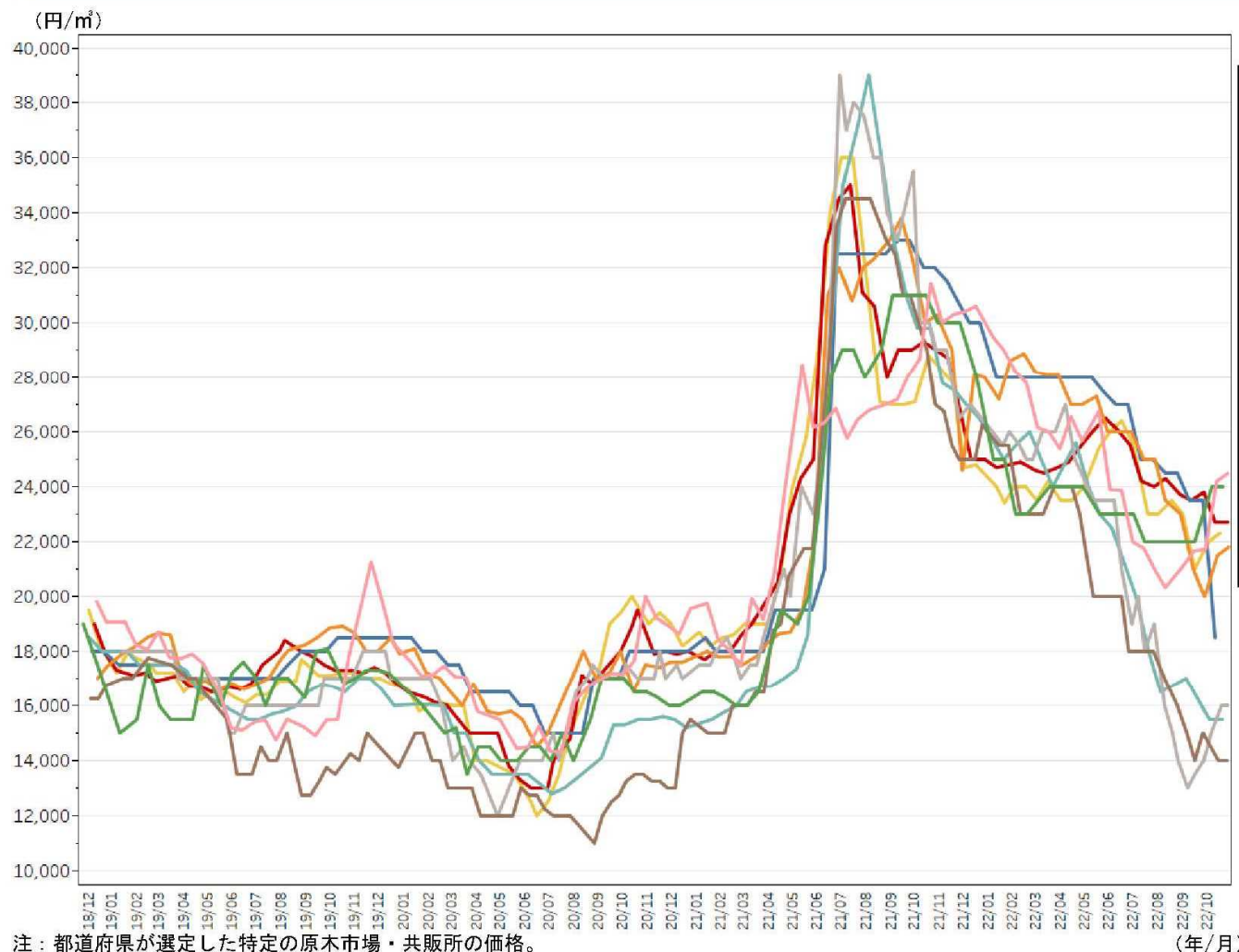
(単位：円)

都道府県	2022年直近*	前年同期	前年同期比
■ 北海道	13,500	11,200	121%
■ 秋田県	17,900	17,830	100%
■ 栃木県	16,490	16,200	102%
■ 長野県	14,000	14,000	100%
■ 岡山県	11,000	13,000	85%
■ 高知県	15,500	18,500	84%
■ 熊本県	18,500	18,700	99%
■ 宮崎県	17,700	18,800	94%

※北海道、秋田県については9月、栃木県、長野県、岡山県、高知県、熊本県及び宮崎県については10月の値を使用。

イ ヒノキ (全国) 径24cm程度、長3.65~4.0m (2018年12月~)

- ・ヒノキにおいてもスギと同様に、2021年4月以降、価格が大きく上昇。その後下落傾向に転じているが、**2021年3月以前と比較すると全般的に高い水準で推移。**
- ・直近のヒノキ原木価格は、**14,000円~24,490円/m³**となっている。



注：都道府県が選定した特定の原木市場・共販所の価格。
資料：林野庁木材産業課調べ

(単位：円)

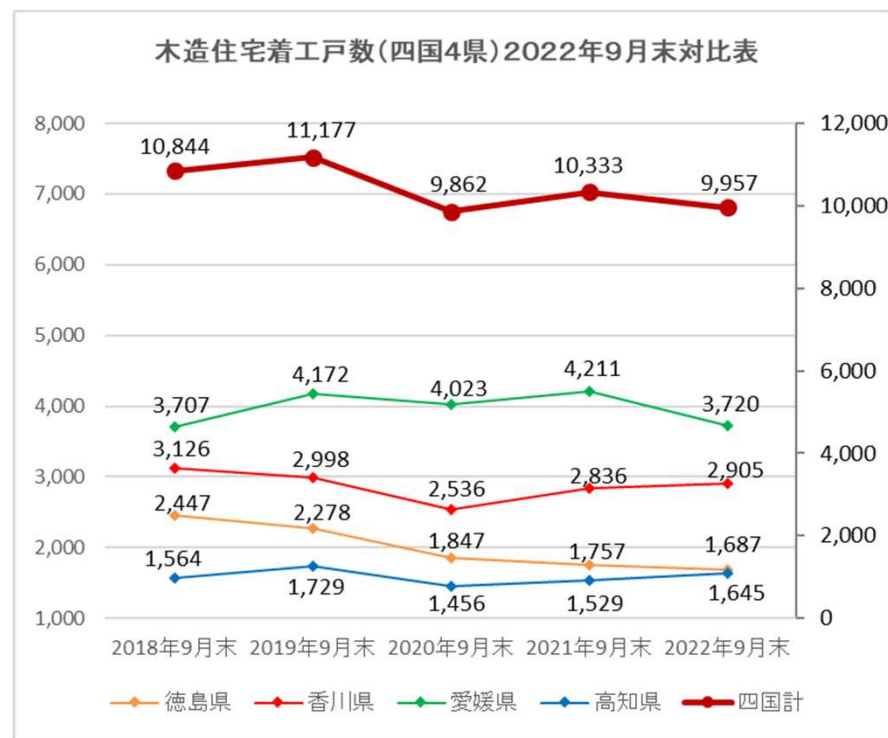
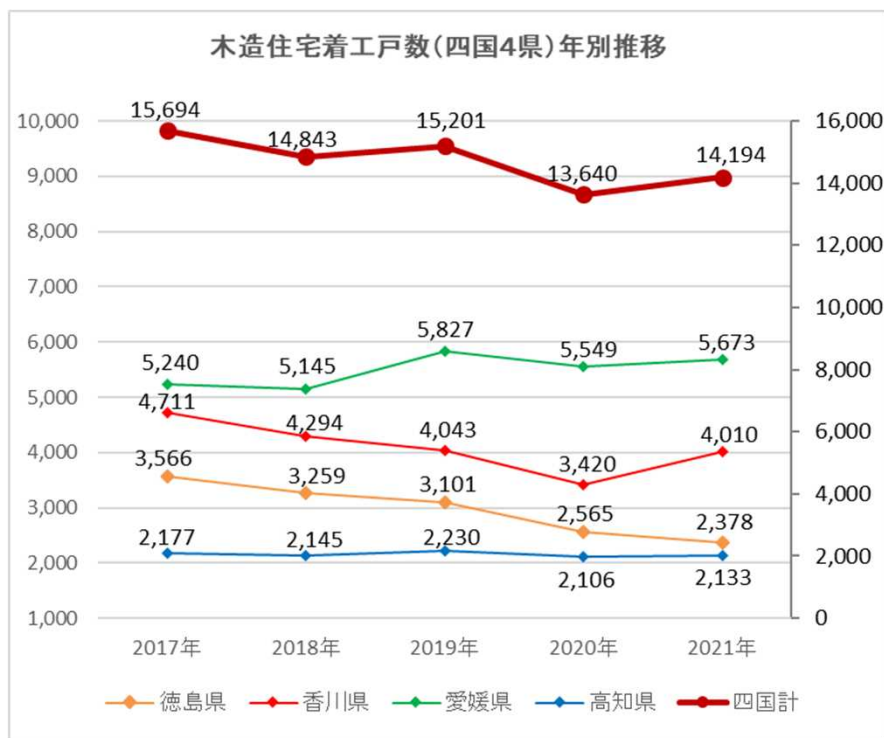
都道府県	2022年直近*	前年同期	前年同期比
栃木県	24,490	31,420	78%
静岡県	24,000	30,000	80%
兵庫県	14,000	27,000	52%
岡山県	16,000	30,000	53%
広島県	15,500	29,800	52%
愛媛県	21,800	30,280	72%
高知県	18,500	32,000	58%
熊本県	22,700	29,300	77%
大分県	22,300	28,800	77%

*各県10月の値を使用。

IV 住宅着工戸数

1 四国における木造住宅着工戸数の推移

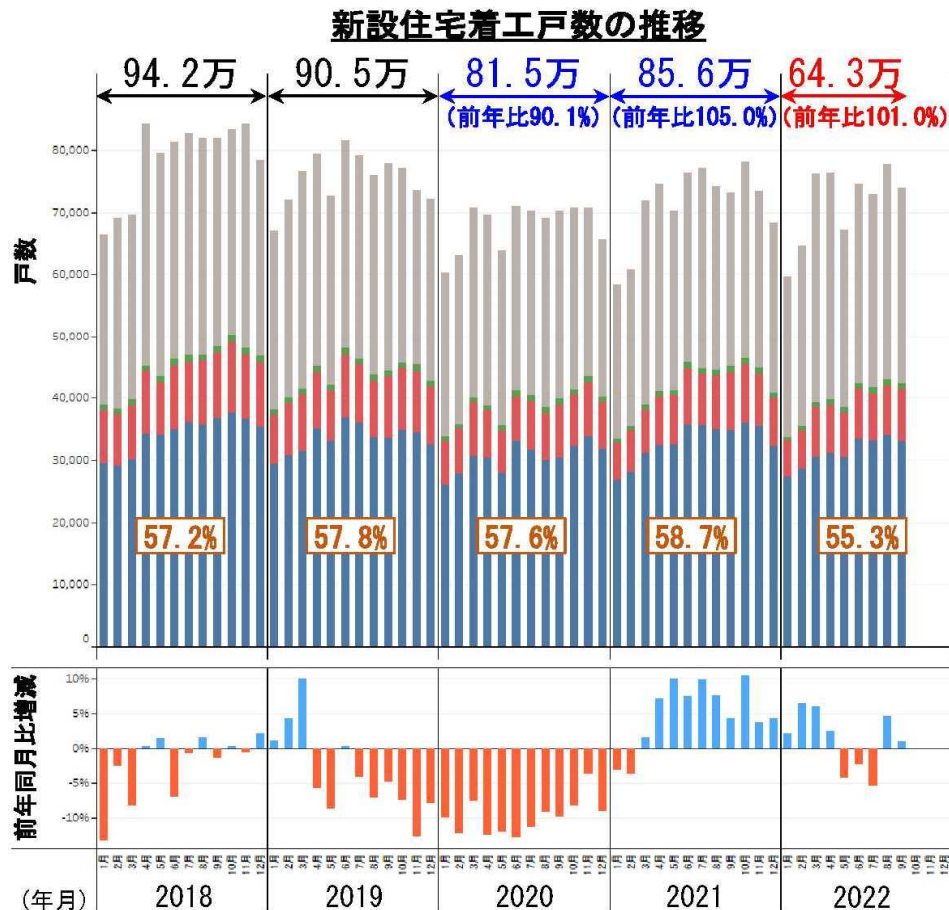
- 四国における2021年の木造住宅着工戸数は14,194戸、2020年（13,640戸）からは増加したが、2019年には届かなかった。
- 2022年9月末の木造住宅着工戸数は9,957戸（前年同期比96.4%）。県別では、徳島県1,687（同96.0%）、香川県2,905（同102.4%）、愛媛県3,720（同88.3%）、高知県1,645（同107.6%）



資料: 国土交通省「住宅着工統計」

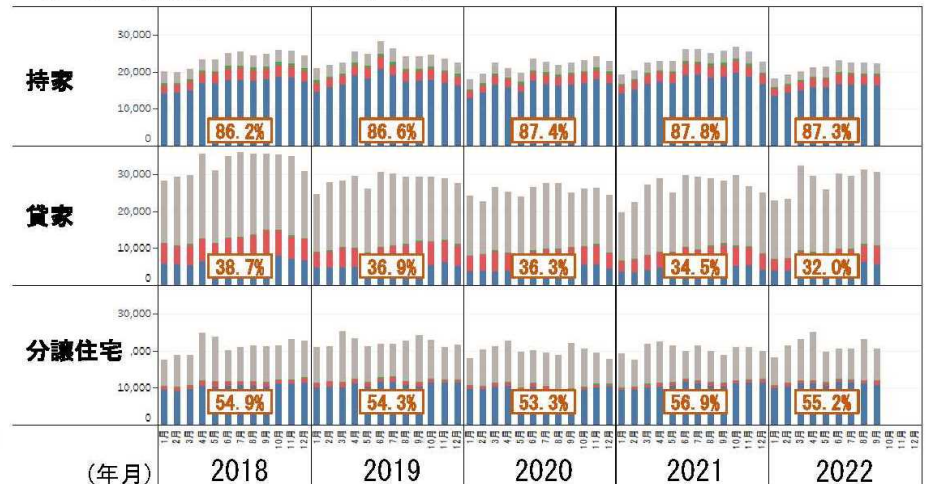
2 全国の住宅着工戸数の推移（2018年1月～2022年9月）

- 2021年の新設住宅着工戸数は、85.6万戸（前年比105.0%）、このうち木造住宅は50.2万戸（同107.0%）となり、2020年からは増加したが、新型コロナウイルス感染症拡大前の2019年の水準は下回った。
- 2022年1～9月の新設住宅着工戸数は、64.3万戸（前年同期比101.0%）、このうち木造住宅は35.6万戸（同96.1%）。



構造別の着工戸数	2022年 1～9月	前年 同期	前年 同期比	前々年 同期	前々年 同期比
合計	643,120	636,673	101.0%	608,214	105.7%
■ 非木造	287,251	266,483	107.8%	263,936	108.8%
■ 木造	355,869	370,190	96.1%	344,278	103.4%
■ 木造プレハブ	7,333	7,641	96.0%	8,010	91.5%
■ 2×4	66,999	70,312	95.3%	68,636	97.6%
■ 在来軸組	281,537	292,237	96.3%	267,632	105.2%
□ 木造率	55.3%	58.1%		56.6%	

（参考）利用関係別の着工戸数（ただし、「給与住宅」を除く。）



「定常範囲を逸脱する動き」について

(資料2)

分析結果

(ア) 木材価格の前月比における逸脱の有無

調査月 令和4年7月～令和4年10月

【スギ中丸太】 ・ 定常範囲を逸脱した動きはなし。

【ヒノキ中丸太】 ・ 9月に定常範囲を逸脱したが、10月は定常範囲に戻った。

(イ) 木材価格の前月比における下落(上昇)の継続(5ヶ月以上)

調査月 令和4年7月～令和4年10月

【スギ中丸太】 ・ 5ヶ月未満。

【ヒノキ中丸太】 ・ 10月時点で5ヶ月連続の下落となった。

(ウ) 木材価格の前年度同月比における逸脱の有無

調査月 令和4年7月～令和4年10月

【スギ中丸太】 ・ 定常範囲を逸脱した動きはなし。

【ヒノキ中丸太】 ・ 9月から2ヶ月連続で下限値を逸脱した。

(エ) 木材価格の2ヶ年平均価格比における逸脱の有無

調査月 令和4年7月～令和4年10月

【スギ中丸太】 ・ 定常範囲を逸脱した動きはなし。

【ヒノキ中丸太】 ・ 定常範囲を逸脱した動きはなし。

(オ) 製材用素材の在庫率における逸脱の有無

調査月 令和4年7月～令和4年10月

【徳島県・愛媛県】 ・ 定常範囲を逸脱した動きはなし。

【愛媛県・高知県】 ・ 定常範囲を逸脱した動きはなし。

四国森林管理局国有林材供給調整検討委員会運営要領（平成25年7月30日付け25四資第19号）の2の（ア）から（オ）に係る確認

〔判断基準・指標〕

○ 過去10年間の月別データを基に、平均と標準偏差から95%の信頼区間を算出し、その区間を逸脱するか否かを確認

○ 使用データは、農林水産省の「木材価格」・「製材統計」を使用

○ 丸太価格、在庫率の変動

1 スギ中丸太価格（徳島県・愛媛県）

	逸脱上限値 5.91%				逸脱下限値 -5.85%				逸脱上限値 21.89%				逸脱下限値 -20.05%				逸脱上限値 17.61%				逸脱下限値 -16.50%			
	前月比 (%)								連続上昇・連続下落 (月)				前年同月比 (%)				2ヶ年平均価格比 (%)							
	7月	8月	9月	10月	7月	8月	9月	10月	7月	8月	9月	10月	7月	8月	9月	10月								
スギ中丸太 (径級14~22cm) (長級3.65~4.00m)	-5.12%	-1.50%	-1.91%	-5.67%	-1	-2	-3	-4	-3.74%	-5.79%	-6.32%	-8.83%	4.19%	2.79%	0.92%	-3.31%								

注1) 数値の赤字は定常範囲を逸脱しているものである。

注2) 木材価格データは農林水産省の「木材価格統計」を使用し、算出したものである。

2 ヒノキ中丸太価格（愛媛県・高知県）

	逸脱上限値 9.15%				逸脱下限値 -9.47%				逸脱上限値 40.01%				逸脱下限値 -39.64%				逸脱上限値 29.95%				逸脱下限値 -31.54%			
	前月比 (%)								連続上昇・連続下落 (月)				前年同月比 (%)				2ヶ年平均価格比 (%)							
	7月	8月	9月	10月	7月	8月	9月	10月	7月	8月	9月	10月	7月	8月	9月	10月								
ヒノキ中丸太 (径級14~22cm) (長級3.65~4.00m)	-0.93%	-8.59%	-15.42%	-8.90%	-2	-3	-4	-5	-23.64%	-38.68%	-46.67%	-49.41%	-1.93%	-9.09%	-22.62%	-26.95%								

注1) 数値の赤字は定常範囲を逸脱しているものである。

注2) 木材価格データは農林水産省の「木材価格統計」を使用し、算出したものである。

3 製材用素材の在庫量

	素材の在庫率			
	7月	8月	9月	10月
製材用素材(徳島・愛媛)	1.41	1.33	1.28	1.20
製材用素材(愛媛・高知)	1.32	1.39	1.22	1.29

逸脱上限値	逸脱下限値
1.88	0.80
1.58	0.88

注1) 数値の赤字は定常範囲を逸脱しているものである。

注2) 在庫率のデータは農林水産省の「製材統計」を使用し、算出したものである。